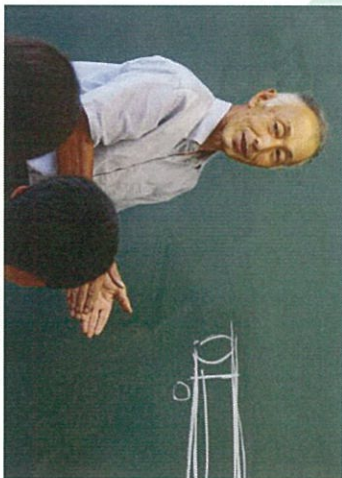


学校支援会報

■平成27年 8月10日発行 第4号 ■編集 一関市学校支援室根地域本部事務局(一関市室根市民センター内 TEL:0191-64-2347)

自分の家を建てる夢みて!



分かりやすく説明する菅原さん

木材を生産する山林の機能や現在と昔の活用方法の違いなどについて、7月14日に講演が行われました。

菅原さんは「現在は住宅建材として使われることが多いが、昔は燃料や鉄道の枕木、電柱など木材の活用が多かった。しだいに石油製品に代わり、木材の活用が減ってきたため山林は間伐されなくなり荒れている。自分の家に山がある人はこの機会に見に

室根中学校の1年生32人が、室根町で生産される木材について学習するため、菅原隆義さん(講師)を依頼。行き、自分の将来を考えるきっかけにして欲しい。山に興味をもって、将来自分の家を建てる夢をもってもらいたい」と話しました。生徒代表は「山は単純ではなく、災害を防ぐためには山の手入れが必要なことわかった」と感想を話しました。

菅原隆義さん

講演で生徒たちは、これからの世代に受け継いで



生徒たちも真剣に聞いていました

もらいたい環境や財産など、多くのことを学んだ様子でした。お忙しいところ講演していただき、ありがとうございました。

今年もスツキリ剪定作業



チームワークで手際よく作業

室根西小学校で7月30日、「むすね山野草の会」の皆さんにより校庭の庭木とフール生垣の剪定が行われました。

絡まったツルを切りながら剪定作業が行われました。通路奥の生垣は枝が太く電動ハサミが使えないため手作業で剪定、切り落とされた枝を一輪車で何度も運んでいました。枝木や草の処分、草刈りまでしていただいたおかげで校庭もフールもとてもきれいになりました。学校でも大変ありがたいと感謝していました。



おかげで子どもたちも気持ちよくフールを楽しめます♪

彩り鮮やか七夕飾り♪

室根東小学校で7月3日、ボラソチニアに小山純子さんをお願いして七夕飾りを作りました。

小山さんは昨年七夕飾りの作成を手伝っていたので、器用な手先で次々と折り紙ですてきな飾りを作ってくれたことが印象的でした。



職員室前の展示コーナーが癒しの空間に

今回は、直前(2日前)の依頼にもかかわらず、ご自宅できつつか飾りを作ってくれてくださりました。画面色つきの折り紙を使用して作ったアリンソジ切り紙は色鮮やか。さらさら光る折り紙を使った飾りも涼しげでとてもきれいです。



折り紙がきれいな飾りに

飾り付けは6日、配色やバランスを調整しながら行い、約1時間半で終了。通りかかった子どもたちから「きれい!!」から「かわいい!!」「作り方、おしえてください!!」と声を掛けられ、小山さんもうれしそうに笑顔で応えていました。

作業を終え、小山さんは「折り紙を折ることが好きなので、皆さんのお役に立つことができうれしいです」と話していました。

前日までに完成し、きれいな飾りで七夕の日を迎えることができました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

リズム奏でる室中太鼓

室根中学校では、今年も奥野幸市さんに「室中太鼓」の指導を依頼。27人の生徒が参加し、7月6日に初練習が行われました。

今年は希望者が多く早めに締め切るほど人気だったとのこと。奥野さんが来校する前にリーダーの三浦雅史君を中心に太鼓を並べて準備していました。今年も曜日を設定せず、11月の産業文化祭まで22回の練習日を設定する予定です。

始めは緊張していた生徒たちも、奥野さんの「練習は楽しくやりますよ!!」の声で緊張もほぐれ練習開始。約半



積極的に練習する生徒たち

数(約半)の生徒が初心者で、バチの持ち方から立ち方など、太鼓の基本から学んでいました。その後、初めて参加した生徒は「小学校の運動会で太鼓をやったけど叩き方が全然違う。練習は楽しかった!」1列目の生徒は「前に人がいないので自分が頑張らないといけない。頑張ってたのでリズムができた」と話していました。生徒たちは練習日以外にも時間をとり、自主練習を行う予定にしています。

奥野さんは「最後までやり通すことが大事」と話していました。奥野さんには長い練習期間になりましたがご指導よろしくお願ひします。



「基本パターンができるまで、5分でもいいから毎日練習」と約束していました